

ID No.	2001
研究課題名	細胞表層プロテオリシスによるがん悪性化機構の解明
研究代表者	越川 直彦 (神奈川県立がんセンター・部長)
研究組織 受入教員 研究分担者	尾山 大明 (東京大学医科学研究所・准教授) 菊地 慶司 (神奈川県立がんセンター・主任研究員) 峰岸 知子 (神奈川県立がんセンター・研究員) 宮城 洋平 (神奈川県立がんセンター・部長) 秦 裕子 (東京大学医科学研究所・技術専門員)
研究報告 MT1-MMP によるプロセシングでがん化促進因子へ変換された受容体チロシンキナーゼの切断部位の一般性を確認するために、ヒト大腸がんより EphA2 を単離・精製し、医科研疾患プロテオミクスラボの nano-LC-MS/MS を用いて同定した。その結果、これまでに我々が報告した切断部位と同一の切断部位を同定した。この結果は、MT1-MMP による EphA2 プロセシングサイトの一般性が明らかとなり、このプロセシングを受けた EphA2 断片が真の分子標的治療の標的であることを示唆している。今後、治療標的としての可能性を検証する予定である。	